調査

景況感、コロナ禍の影響続くなか、一部持ち直しの動き

～第122回 県内企業景況調査（速報）～

■ 調 査 対 象: 県内主要企業 382社（回答企業数237社、回答率62.0%）
■ 調 査 方 法: WEBと郵送を併用しアンケートを実施
■ 調 査 期 間: 2020年10月28日～11月13日（11月13日までの回答データを速報版として集計）
■ 業種別内訳: 製造業55社、非製造業182社

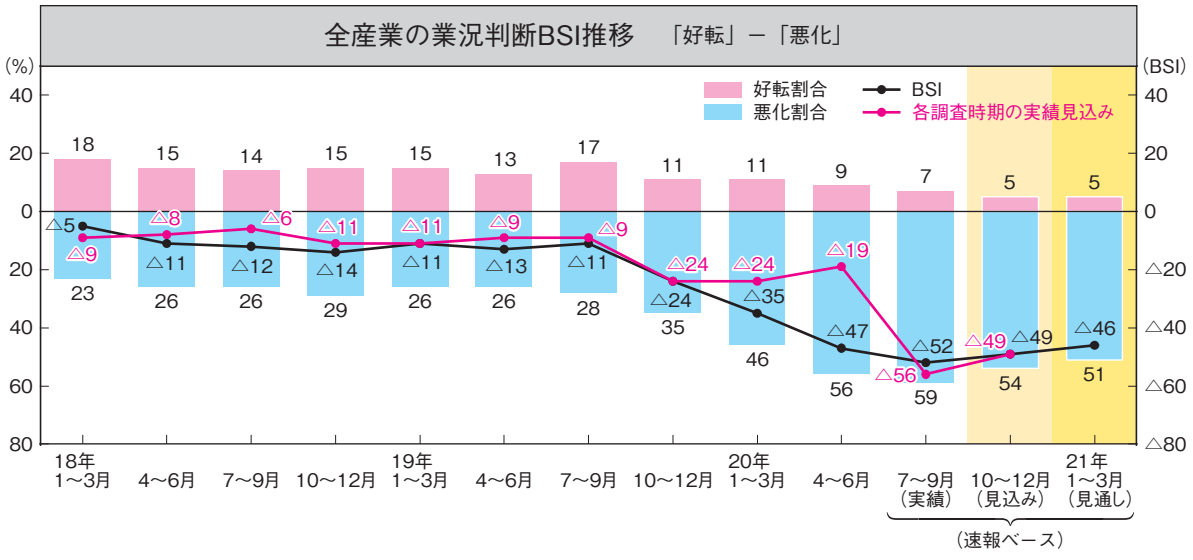
※BSIについて: BSIは回答企業の「好転・増加・上昇」とする企業割合から「悪化・減少・下落」とする企業割合を差し引いた指標。

概況

○全産業の業況判断BSIをみると、全国に加え県内においても新型コロナウイルス新規感染確認者数が増加するなか悪化が続き2020年7～9月期実績は△52まで低下。足もと10～12月期（実績見込み）については、特別定額給付金やGOTOトラベルキャンペーン等政府の消費喚起策の効果から△49とやや持ち直し。もっとも、コロナ禍の感染再拡大への懸念が依然強いことから持ち直しのペースは鈍く、先行き21年1～3月期も△46の見通し。

○県内企業の景況感は、コロナ禍の影響を受け大幅に悪化後、幾分持ち直しも厳しい状況が続いている。感染症の影響は徐々に和らいでいるものの、コロナ禍再拡大の警戒感から、受注や売上は低迷、雇用・所得環境についても悪化。一方、公共投資は高水準で推移、生産や輸出面は持ち直し。個人消費は、特別定額給付金やGOTOトラベルキャンペーンなど政府の施策の下支え効果もあって持ち直し。

○経営上の問題点はコロナ禍の影響を受け「売上・受注の不振」が66.5%でトップ。以下、「人材不足」37.8%、「設備の老朽化」33.5%と続く。



1. 業況判断

全産業の業況判断BSIをみると、全国に加え県内でも新型コロナウイルス新規感染確認者数が増加するなか悪化が続き2020年7～9月期実績は△52まで低下した。足もと10～12月期（実績見込み）については、特別定額給付金やGOTOトラベルキャンペーン等、政府による消費喚起策の効果から△49とやや持ち直し。もっとも、コロナ禍の感染再拡大への警戒感が依然強いことから持ち直しのペースは鈍く、先行き21年1～3月期も△46の見通し。

業種別　業況判断BSI推移（直近２年）

（BSI）

業種	過去の調査の実績						今回調査		
							実績	見込み	見通し
	2019年				2020年		2020年		2021年
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期
全産業	△ 11	△ 13	△ 11	△ 24	△ 35	△ 47	△ 52	△ 49	△ 46
製造業	△ 17	△ 11	△ 17	△ 13	△ 34	△ 52	△ 51	△ 62	△ 43
輸送機械	△ 27	0	△ 18	△ 20	13	△ 38	△ 25	△ 50	△ 25
一般機械	△ 25	△ 9	△ 17	△ 9	△ 16	△ 40	△ 56	△ 67	△ 56
電気機械	30	△ 37	0	△ 11	△ 12	△ 30	△ 75	△ 75	△ 50
食料品	△ 15	10	△ 21	5	△ 61	△ 66	△ 50	△ 44	△ 38
その他	△ 28	△ 19	△ 18	△ 26	△ 39	△ 57	△ 47	△ 75	△ 41
非製造業	△ 9	△ 14	△ 10	△ 28	△ 36	△ 46	△ 52	△ 45	△ 48
運輸	2	△ 11	△ 12	△ 31	△ 69	△ 84	△ 88	△ 78	△ 78
水産	△ 50	△ 75	△ 60	△ 50	△ 33	△ 100	△ 100	△ 50	△ 75
建設	△ 2	△ 10	0	△ 6	0	△ 18	△ 22	△ 25	△ 33
卸売	△ 31	△ 32	△ 16	△ 42	△ 32	△ 39	△ 29	△ 21	△ 31
小売	△ 15	△ 27	△ 6	△ 51	△ 36	△ 45	△ 63	△ 46	△ 59
サービス	0	4	△ 11	△ 14	△ 42	△ 47	△ 69	△ 65	△ 40
その他	26	31	7	△ 7	△ 19	△ 27	△ 43	△ 46	△ 46

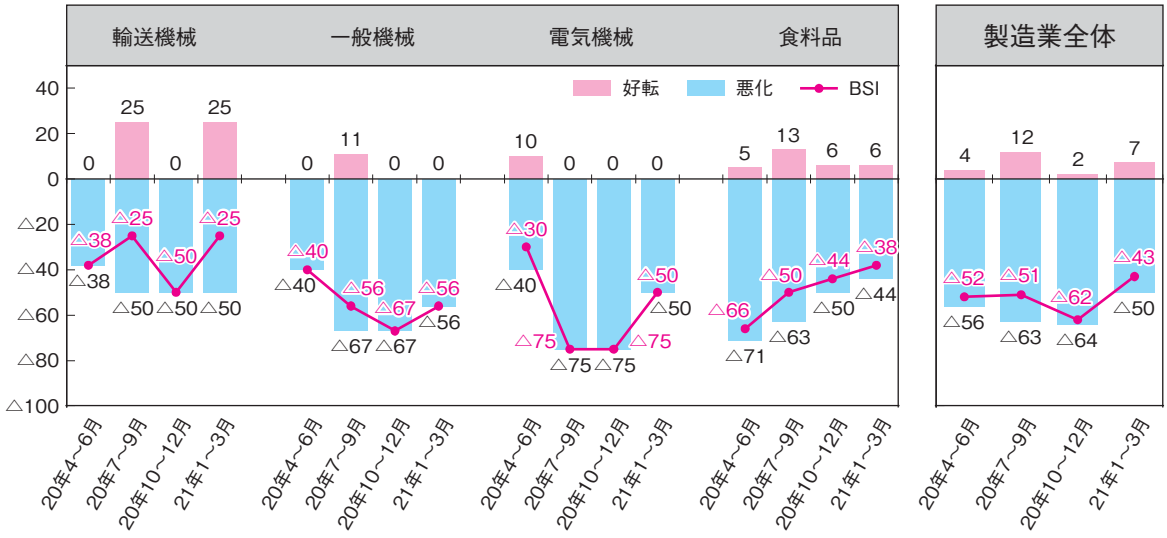
業種別（細分類）業況判断BSI及び企業割合の推移

（%、BSI）

業種	2020年4～6月期（実績：前年同期比）				2020年7～9月期（実績：前年同期比）				2020年10～12月期（実績見込：前年同期比）				2021年1～3月期（見通し：前年同期比）			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
全産業	9	35	56	△47	7	34	59	△52	5	41	54	△49	5	44	51	△46
製造業	4	40	56	△52	12	25	63	△51	2	34	64	△62	7	43	50	△43
輸送機械	0	62	38	△38	25	25	50	△25	0	50	50	△50	25	25	50	△25
一般機械	0	60	40	△40	11	22	67	△56	0	33	67	△67	0	44	56	△56
電気機械	10	50	40	△30	0	25	75	△75	0	25	75	△75	0	50	50	△50
食料品	5	24	71	△66	13	24	63	△50	6	44	50	△44	6	50	44	△38
非製造業	10	34	56	△46	6	36	58	△52	6	43	51	△45	4	44	52	△48
運輸	0	16	84	△84	0	12	88	△88	3	16	81	△78	0	22	78	△78
道路旅客運送業	0	0	100	△100	0	12	88	△88	0	0	100	△100	0	0	100	△100
道路貨物運送業	0	38	62	△62	0	20	80	△80	10	40	50	△40	0	50	50	△50
水運業	0	17	83	△83	0	0	100	△100	0	0	100	△100	0	0	100	△100
水産	0	0	100	△100	0	0	100	△100	0	50	50	△50	0	25	75	△75
建設	11	60	29	△18	0	78	22	△22	4	67	29	△25	0	67	33	△33
卸売	18	25	57	△39	16	39	45	△29	14	51	35	△21	6	57	37	△31
機械器具卸売業	0	46	54	△54	17	50	33	△16	8	67	25	△17	0	83	17	△17
建築材料卸売業	0	17	83	△83	0	50	50	△50	17	50	33	△16	17	16	67	△50
小売	13	29	58	△45	4	29	67	△63	4	46	50	△46	4	33	63	△59
各種商品小売業	30	20	50	△20	0	50	50	△50	0	33	67	△67	0	17	83	△83
機械器具小売業	0	10	90	△90	0	11	89	△89	0	67	33	△33	11	45	44	△33
サービス	7	39	54	△47	3	25	72	△69	0	35	65	△65	13	34	53	△40
その他	0	0	100	△100	0	25	75	△75	0	25	75	△75	0	25	75	△75

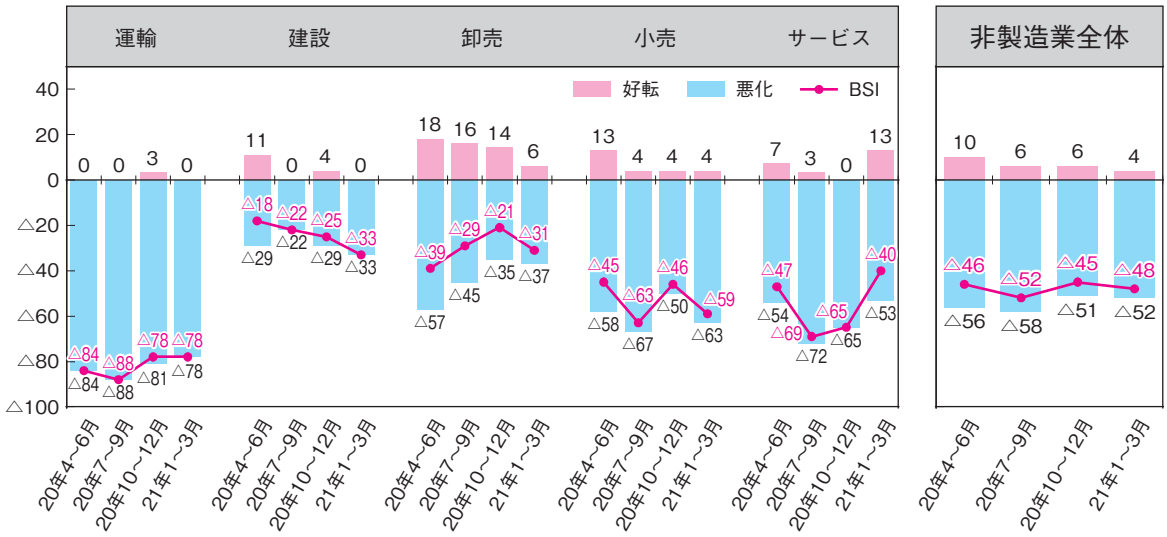
(1) 製造業

製造業の業況判断BSIは、20年4～6月期実績△52から、7～9月期実績△51と前回見込み（△57）を上回ったものの、10～12月期実績見込みは△62と悪化し、前回見通し（△47）を下回った。一般機械、電気機器では、コロナ禍再拡大の影響懸念から商談が進まず、受注や売上に影響が出ている。一方、食料品製造業のなかには、業務用需要が減少したが、家庭用需要が増加し、EC・通販部門が好調に推移するなどの動きがみられる。また、21年1～3月期先行きは△43とBSIは持ち直しも、大幅なマイナスが続く見通し。



(2) 非製造業

非製造業の業況判断BSIは、20年7～9月期実績が、前回見込み（△55）をやや上回る△52。10～12月期見込みも前回見通し（△53）を上回る△45となった。もっとも、先行き21年1～3月期は△48と不透明感が続く見通し。足もとでは、小売業やサービス業などの業種で、特別定額給付金やGOTOトラベルキャンペーン等の効果がみられる。先行きについては、コロナ禍の再拡大で経済活動が停滞することへの懸念から、慎重な見方。



調査項目別BSI

		2020年7～9月期			2020年10～12月期			2021年1～3月期見通し	
		前回実績見込み	今回実績	前回比	前回見通し	今回実績見込み	前回比	見通し	今回実績見込み比
売上	全産業	△55	△52	↗	△53	△47	↗	△49	↘
	製造業	△53	△46	↗	△49	△52	↘	△44	↗
	非製造業	△56	△54	↗	△55	△47	↗	△51	↘
受注残高	全産業	△45	△48	↘	△47	△50	↘	△43	↗
	製造業	△52	△56	↘	△48	△54	↘	△43	↗
	非製造業	△34	△31	↗	△48	△42	↗	△42	→
在庫	全産業	6	4	↘	7	2	↘	2	→
	製造業	4	0	↘	10	△4	↘	2	↗
	非製造業	8	4	↘	6	4	↘	2	↘
操業度・稼働率	全産業	△52	△57	↘	△44	△49	↘	△40	↗
	製造業	△54	△57	↘	△48	△56	↘	△40	↗
	非製造業	△51	△57	↘	△43	△45	↘	△40	↗
雇用人員	全産業	△11	△10	↗	△12	△14	↘	△15	↘
	製造業	11	5	↘	7	△3	↘	△5	↘
	非製造業	△19	△15	↗	△17	△17	→	△17	→
販売価格	全産業	△12	△13	↘	△11	△13	↘	△11	↗
	製造業	△17	△28	↘	△16	△26	↘	△18	↗
	非製造業	△10	△7	↗	△9	△9	→	△9	→
仕入価格	全産業	9	8	↘	10	3	↘	5	↗
	製造業	17	15	↘	15	9	↘	13	↗
	非製造業	6	6	→	8	2	↘	3	↗
採算	全産業	△54	△47	↗	△51	△50	↗	△49	↗
	製造業	△54	△50	↗	△49	△64	↘	△45	↗
	非製造業	△54	△46	↗	△51	△45	↗	△50	↘
資金繰り	全産業	△27	△18	↗	△25	△18	↗	△20	↘
	製造業	△29	△19	↗	△31	△23	↗	△17	↗
	非製造業	△26	△18	↗	△23	△17	↗	△21	↘

2. 売上高

全産業の売上高BSIが、20年7～9月期実績は△52、10～12月期見込みは△47となり、幾分持ち直しも、先行き21年1～3月期は△49と引き続き大幅なマイナスが続く見通し。

コロナ禍の影響による売上の減少は下げ止まり感があるものの、前年の水準までは戻らず、先行きも大幅なマイナスが続く見通し。

売上高BSI

	前回実績	今回実績	今回実績見込み	次回見通し
	2020年4～6月期	2020年7～9月期	2020年10～12月期	2021年1～3月期
全産業	△47	△52	△47	△49
製造業	△50	△46	△52	△44
非製造業	△46	△54	△47	△51
大企業	△63	△62	△60	△52
中小企業	△44	△51	△46	△48

3. 採算

全産業の採算（経常利益）BSIは20年7～9月期実績△47、10～12月期見込みは△50、先行き21年1～3月期△49と、大幅なマイナスが続く見通し。

背景として、仕入価格BSIが製造・非製造ともプラスで高止まりが続く一方、販売価格BSIはマイナスとなるなど価格転嫁が容易ではないことが挙げられる。

採算BSI

	前回実績	今回実績	今回実績見込み	次回見通し
	2020年4～6月期	2020年7～9月期	2020年10～12月期	2021年1～3月期
全産業	△41	△47	△50	△49
製造業	△56	△50	△64	△45
非製造業	△38	△46	△45	△50
大企業	△56	△67	△62	△55
中小企業	△40	△44	△47	△48

4. 雇用人員

全産業の雇用人員BSIは7～9月期の△10から10～12月では△14と不足感が強まり、21年1～3月期についても△15と不足感が続く見通し。

先行きについては、大企業では一部に過剰感も、中小企業では不足感が続く見通し。

雇用人員BSI

	前回実績	今回実績	今回実績見込み	次回見通し
	2020年4～6月期	2020年7～9月期	2020年10～12月期	2021年1～3月期
全産業	△12	△10	△14	△15
製造業	9	5	△3	△5
非製造業	△19	△15	△17	△17
大企業	0	10	3	7
中小企業	△14	△13	△16	△17

5. 資金繰り

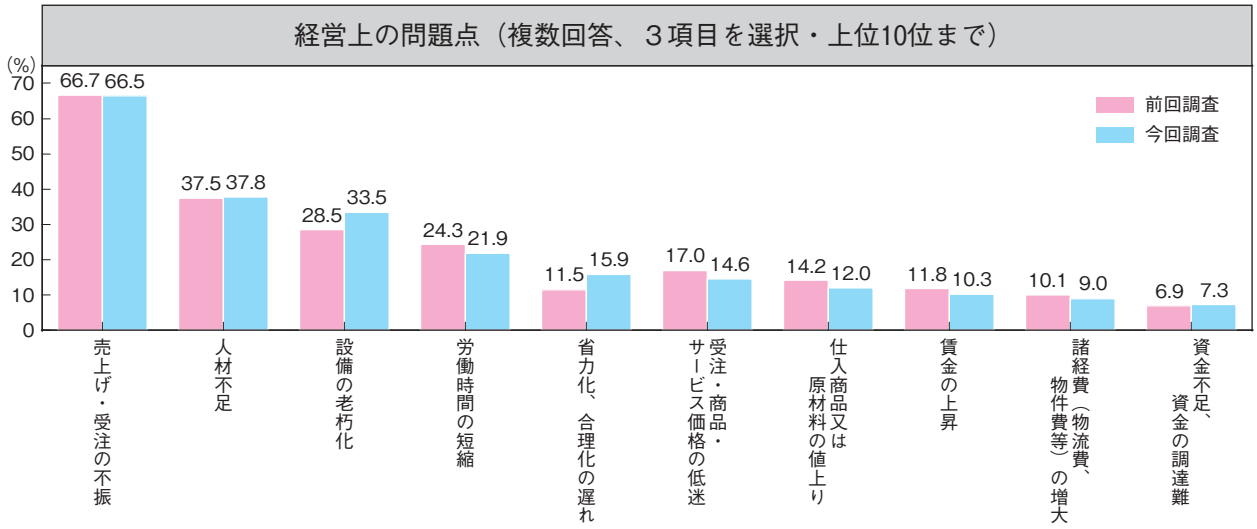
全産業の資金繰りBSIは、7～9月期･10～12月の△18から、21年1～3月期は△21へと悪化の見通し。

国や自治体、金融機関の各種支援策があるものの、コロナ禍が長期化し、想定外の売上の減少や収益の低迷により、資金繰りBSIはマイナスが続く。

資金繰りBSI

	前回実績	今回実績	今回実績見込み	次回見通し
	2020年4～6月期	2020年7～9月期	2020年10～12月期	2021年1～3月期
全産業	△21	△18	△18	△20
製造業	△24	△19	△23	△17
非製造業	△21	△18	△17	△21
大企業	△34	△24	△28	△25
中小企業	△20	△18	△17	△19

6. 経営上の問題点



経営上の問題点（3つ以内の複数回答、全産業計）は、**「売上･受注の不振」**が66.5%でトップ。これに**「人材不足」**が37.8%、**「設備の老朽化」**が33.5%で続く。

このうち、「売上･受注の不振」の理由については、「コロナ禍の影響による売上の下げ止まり感はあるものの前年並みまで戻る気配がない」（運輸業）や、「GOTOキャンペーンで10月から個人客が増加したが、キャンペーンが終了する2月以降の予約はほぼ入っていないことから、その反動が懸念される」（宿泊業）などのコメントが寄せられた。

また人材不足については、「乗務員が高齢化していることから、人材募集の強化や多様化を対応中」（運輸業）、「求人の状況等を見直し、1人でも多く人材を確保し、育成にも努める」（建設業）などの動きがみられる。

（泉　　猛）

■景況感の判断理由など（抜粋）

区分		状況の説明など
製造業		
輸送機械	造船	・引き続き利益の出る組織体制を構築している。
	〃	・社員教育、入社後の教育指導の充実等を実施してコミュニケーションを深める。高校・大学を訪問して会社の説明会を実施し、当社の理解を深めてもらうよう努力している。
一般機械	はん用機械器具	・受注環境については、従来からの設備投資の低迷により客先都合による商談延期があり厳しい状況が続いている。感染対策による商談活動低迷による受注減もあり、受注残高は減少しており、下半期以降の売上悪化が危惧される。
	〃	・コロナの影響で商談の進捗度合いが悪い。資材入荷も遅れ気味で納期確保が厳しい状況が続き、仕事の山谷が激しい傾向。
	〃	・営業活動を再開し、確定工事が徐々に増えているが、新型コロナウィルスの悪影響は大きい。来年3月以降は工事が多数重なる見込みで、人員確保が課題となる。
電気機械	電機機械器具	・新型コロナウイルス感染拡大に伴う自粛要請延長等の影響により受注・売上共に前回より若干改善したものの前年同期並みの回復までは見込めない状況。
	〃	・新型コロナウイルスの影響が続き景況は依然厳しいが、底は脱しており、徐々に回復するとみている。一方で、当面の間、設備投資は慎重に見極めつつ需要回復後に備える。
	〃	・労働時間管理の更なる強化やITツールの活用等による働き方改革を推進予定。
食料品	食料品	・販売のために使う投資を増加させた効果で売上が前年並みまで回復。周りが投資を控える中、マーケティングに投資を増やした結果、アドバンテージが増加した。
	〃	・GOTOトラベルキャンペーンの効果もあり、年末にかけ売り上げ増期待している。しかし、キャンペーン終了後は落ち込むものと思われる。また、技能実習生10名は入国時期未定。
	〃	・コロナ不況が懸念されるが、来期設備投資の計画も、状況をみての決定となる見込み。
	〃	・GOTOトラベルキャンペーン等の施策により観光部門はやや改善してきたが、従前には程遠い状況にある。引き続きEC・通販部門は好調に推移している。新型コロナは長引くと想定しているので、新商品や新販路で売上確保に向けた施策を行う。
その他製造業	金属製品	・主要販売先からの受注減及び新型コロナウィルスによる営業の自粛もあって、現状受注残が減少傾向にある。
	〃	・受注、価格の低迷が続いている。
非製造業		
運輸	鉄道	・コロナウイルスの影響が大きく売り上げが大きく落ち込み、先行き不透明の状態が続いている。
	タクシー	・10月に入り、GOTOトラベルの影響で観光客が増えはじめ売上高が対前年10%減まで回復できている状況。忘年会シーズンで売上がどれだけ回復できるか全く見当がつかない。夜の繁華街が賑わってくれば売上高も前年程度まで回復すると考える。
	〃	・例年、10月から12月初旬にかけては、薬品会社セミナー、結婚式及び大型講演会など人の往来が増えタクシー乗車機会も多かったものの、今年はいまだ見込めていない。
	道路貨物輸送	・コロナの影響で一般物の輸送が無く、売上げが減少する。
	水運業	・10月からのGOTOトラベルにて旅行客も戻りつつあり、特に首都圏・関西からの団体ツアーの集客が12月頃まで順調に増加している。一時的な特需かもしれないが、引き続きキャンペーンが継続されれば旅行客もさらに増加すると思われる。
建設業	総合工事	・Web入力システムを開始したが、様々な不具合が発生しており、スムーズな運用には数カ月の調整期間が必要である。
	〃	・労働時間の短縮について現在対策を模索中、現場でのIT活用による効率化を進める必要がある。
	設備工事	・新型コロナウイルス感染症対策の為、従来通りのフェアやセールスは行えない状況となっている。
	〃	・若い人材が足りず求人を出しているが、設備関係の求職者が少ないこともあり、厳しい状況が続いている。
卸売業	農畜産物	・11月に入っても温暖な気候が今後半年の行く末を左右している。コロナウイルスと気候が懸念材料。
	水産物	・カツオ漁が記録的な不漁となり、8月単月では前年比10分の1以下となった。全体としては量価ともに回復傾向になりつつある。
		・相場の下落傾向は続いており、先行きが不透明な状態である。10月に入り、海況が良くなってきたので水揚高はほぼ半年ぶりに回復基調へと変化の兆しがある。今後コロナ禍の第三波が懸念される。
	機械器具	・客先訪問自粛など営業活動が思うようにできていない。客先、特に製造業からの案件が激減した。
	〃	・コロナ禍でのビジネスモデルに対応した商談および受注活動を進めいている。コロナウイルス感染症拡大の影響は、直近の売上および業績には影響はないが、受注活動が制約される期間が長くなれば、来年度以降の業績に影響がでる可能性がある。
小売業	各種商品小売	・10月は、前年の消費税率アップの影響もあり、やや持ち直しの兆しがみえる。11月もイベントの縮小等で売り上げは厳しいが客数が戻りつつある。
	〃	・売上は少しずつではあるが回復、今後も予防継続し、安全安心アピールしていく。
	その他小売	・売上、来店者数はある程度は持ち直してきたが、感染者の状況次第で影響が出ることが考えられる。
	石油	・コロナ禍において、ガソリン需要が落ち込んだことからの価格競争の激化が危惧される。
サービス業	旅館・その他宿泊業	・GoToトラベル効果の影響で10月から急激に個人客が増加。但し、GoTo終了後の2月以降の予約はほぼ入っておらず、GoToの反動が懸念される。
	その他のサービス業	・GoToキャンペーンにおいて、東京が解禁となり少し潮目が変わり、個人旅行は動き始めてきたが、法人は回復の兆しは見えない。
	専門サービス	・新型コロナの感染者が増加する可能性があることからリスク管理の上でテレワーク等の整備をより進めていく必要がある。
	情報サービス業	・前年度はPC（Windows10へ）の入替や官公庁におけるネットワーク強靭化などの特需があり、上期から順調な実績が残せた。次年度以降の見通しは不透明であり、「デジタル庁設立」にみる国のDX推進による需要喚起に期待し、それに対応できるよう情報収集とスキルアップが必要と考える。